

左の記事を読んで、  
下の問いに答えま  
しょう。

正平調

インドなどの西南アジアを半年かけ  
て旅した民族学者の梅棹忠夫さんは  
日本に帰ってきて思った。東京の日  
差しの何と ことか。「わた  
しははじめて、日本がたいへんな北  
国であることをしった」(「文明の生態史  
観」) ◆帰国は1955年11月。インド帰  
りの身に晩秋の寒さがこたえたとしても、  
それでも70年前の当時は「日本北国論」に  
首をかしげる人は少なかったろう。今はど  
うか。「南国」の域さえ超えたと感じる時  
がある ◆6月としては異次元の猛暑が続い  
ている。連日の炎天はもはや「梅雨の晴れ  
間」といった言葉では説明ができない。兵  
庫はきのうも暑かった。きょうは夏至 <sup>①</sup>。太  
陽は一年でもっとも高く昇り、足もとの影  
は短い ◆「徒然草」に庭造りについて記し  
た一節があった。「深き水は涼しげなし。  
浅くて流れたる、遙かに涼し」。水路は深  
いより浅いほうが流れがよく見え、涼しそ  
うだと ◆確かに水であれ何であれ、じっと  
して動かぬものほど見ていて暑苦しいもの  
はない。例えば風そのものは見えずとも、  
さわさわ揺れる木の枝葉は目に一服の涼を  
くれる ◆130年前、神戸で病氣療養中だ  
った正岡子規が詠んでいる。へ六月を奇麗 <sup>③</sup>  
な風の吹くことよ。風ばかりでなく、6  
月の優しい慈雨を待っている。 2025.6.21 <sup>④</sup>

1 空欄に入る言葉  
を、次の中から選  
び、記号で答えま  
しょう。

- ア) すがすがしい
- イ) 輝かしい
- ウ) 弱々しい
- エ) 白々しい

2 傍線部①④の  
読み方を書きま  
しょう。

①
④

3 傍線部②の作者を書きましょう。

NIEワークシート小高～高校

4 傍線部③が詠んだ俳句を、次の中から1つ選んで記号で答えましょう。

- ア) 萬緑の中や吾子の齒生え初むる
- イ) いくたびも雪の深さを尋ねけり
- ウ) 遠山に日の当たりたる枯野かな
- エ) スケートのひもむすぶ間もはやりつつ

# NIEワークシートのこたえ（2025年6月23日公開）

## ◆ワークシート「猛暑の6月(国語)」 2025.6.21付 朝刊 1面 解答

1 ㊦

2 ①げし ④じう

3 兼好法師（吉田兼好 ト部兼好）

4 ㊧